



雨期が終わり、ミャンマーが黄金に色づきはじめました。あちこちでコンバインハーベスターが収穫作業を行っています。プロジェクトサイトのエイヤワディー地域も収穫の真っ最中で、普及員はCS生産圃場を東奔西走し、圃場審査に忙しい日々を送っています。そんな中、エチオピア国JICAプロジェクトのカウンターパートが来緬しました。イエジン農業研究局やエイヤワディー地域のCS生産農家等を視察し、ミャンマーの稲作技術と種子増殖に大きな関心を示していました。私達もミャンマーが彼らの手本となれるよう、一層の努力が必要であると感じました。

エチオピア研究者の来緬 22～24日、JICA 技協・国立イネ研究研修センタープロジェクトの研究者が同国の中長期的な稲作振興を図るため来緬し、当プロジェクトの成果を視察するとともに、民間企業等を訪問し情報収集しました。

BSモニタリング 18日、イエジン農業研究局で、出穂期のモニタリングを行いました。系統栽培法導入8年目で、どの品種も系統間差は見られず、異株もありませんでした。次回は収穫後に実施予定です。

種子調整機の点検 収穫期を前に、昨年供与した3台の種子調整機の保守・点検指導と、オペレーターの再教育を兼ねて専門家を派遣のしました。本機材の効果的な活用により、CS品質の一層の向上が期待されます。



第3回普及員研修 ピャーボン、パテイン、シュエボーで第3回普及員研修を実施しました。今回はCSの品質管理に直接関わる「圃場審査」に焦点を当て、講義・実習を行いました。3箇所所で140名以上の種子専門技術員と普及員が参加しました。(写真左：実習前の指示。みんなまじめにメモをとる。中：採種圃での「圃場審査」実習。畦畔に沿って圃場を観察する遠観審査。異株をきよろきよろ探しながら畦を歩くのは結構大変。右：CS生産の現状と改善をテーマにミニワークショップを開催。グループでブレインストーミング)



普及員の技量 パテインの農家採種圃で「圃場審査」を実習。腕利き普及員は、まずは農家に話を聞き、実習前に情報を引き出します。熟練普及員に引っ張られるように、若手もついていく。参加者間の相互作用は集合研修の利点です。

ステークホルダー会議 29日、シュエボー商業省県事務所にステークホルダー（農業畜産灌漑省、商業省、地元ブランド米生産組織、CS農家、稲作農家等）会議を開催。建設中の種子センターについて説明、同センターの管理運営への関心を高めました。

圃場見学会 21日、ヒンタダにてコメ生産農家、精米業者等を対象に、CSの販売拡大を目的として、CS生産圃場と、CSから生産したコメ生産圃場の見学会を開催しました。参加者は均一に揃った稲穂を見て、CS使用に興味を示していました。



実りの乾期？を迎えて農家は収穫作業に追われていますが、人々の顔には笑顔がこぼれます。今年も豊作でありますように。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)